

令和5年6月定例記者会見及び5月月例記者会見

1. 6月定例記者会見

【説明】

〔令和5年生駒市議会(第3回)定例会 提出案件〕

市長 生駒市議会6月定例会の提出案件について説明します。議案件数は14件です。報告案件が4件、補正予算3件、条例は全て改正事案で4件、人事案件が3件となっております。補正予算については7億円弱の増額補正で、国からの支援をいただき、前年度の補正予算と同様、「さきめしいこま」の実施、省エネ家電の買い換え補助、市内障害福祉サービス事業所への光熱費支援など物価高騰等に対する様々な支援を行います。その他、副市長の選任ということで、山本副市長の再任について議会に同意をいただくため、今回議案として提出しています。

2. 5月月例記者会見

【説明】

〔いこまる相談窓口を開始し、重層的支援会議を設置〕

市長 重層的支援体制の整備については、令和6年度に、全国の地域共生社会のサミットが生駒市で開催をされるということもあり、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

この重層的支援という言葉自体がまだまだ浸透してないところですが、この度生駒市では、「いこまる相談窓口」を開始するとともに、各窓口の業務をサポートし多機関での検討が必要な場合のコーディネート役として「いこまる主任推進員」を配置し、多岐にわたる複合的な悩みに対して、関係課、関係機関による「重層的支援会議」を開催し具体的な支援につなげていきます。

まず、6月1日から開始する「いこまる相談窓口」は、例えば本庁舎にある障がい、生活支援、子育てなどの窓口の他に、地域包括支援センターや生活支援センターなど市内に23の相談窓口を設けました。今までは、相談内容ごとに窓口に行かなければなりませんでしたが、今後は窓口と同じロゴマークを掲げ、最初に相談して頂いた内容を何度も説明をしなくてもよいように「つなぐシート」を活用し、相談内容をきちんとまとめて関係する部署、団体に共有することで、相談者側の負担を減らします。また、担当以外の相談に対しても、別の部署に直接案内したり、担当者を呼んできたりするなど確実につなげる体制を強化します。

この相談窓口とあわせて、悩みに応じて関係者等が集まって総合的にまとめて対応できる「いこまる相談会」も毎月1回定期的で開催します。

複合的な相談については、担当課同士だけの調整では難しいということもありますので、福祉政策課にコーディネート役として長年市や県の福祉部門で勤務経験のある方を「いこまる主任推進員」として2名配置します。

さらに、複雑・複合化した個別のケースを検討するため、定期的に「重層的支援会議」を開催します。緊急の課題には、随時開催することも考えています。5月は、ゴミ集積所までゴミを出しに行くのが難しいというような方を対象にした「まごころ収集」をテーマとして、福祉部門と環境保全課が連携をし

ながら、よりよいサービスが提供できるよう議論しました。

今後は市民が窓口に来ていただいて受け付けた相談だけでは、なかなか全ての課題をフォローできないということもありますので、地域や学校などと連携しながら、より相談しやすいような手法を考え、アウトリーチもして、問題や悩み事にしっかりと対応していかなければいけないと思っています。

まず、このような体制が生駒市でスタートしたことは、画期的なことであると思います。

【IKOMA LOCAL BUSINESS HUB】開催】

市長 「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」は、今回は対象を市外在住者に限らず、市内で創業・第2創業する方、既存事業者で事業発展や事業改善をしたい人まで広げています。内容については、デザイン経営の基礎や経営・財務という基本的な知識を体系的に学びながら、市内の金融関係などいろんな方のお力も借りて、ビジネスプランを作成してどのようにアクションをしていくかまでを個別に支援します。

今まで行ってきた「生駒経営塾」や「生駒営業塾」とこれまでの「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」を組み合わせて、発展統合した事業であるのご理解いただければと思います。

【第22回いこまどんどこまつりを開催】

市長 今年の「いこまどんどこまつり」を8月5日に開催します、今回初めて生駒市役所の東駐車場を活用します。それに加えてコミュニティセンターでは市民活動団体のブースや子ども達だけのフリーマーケットを行います。また、たけまるホールでは、音楽のイベントや友好都市である敦賀市、南あわじ市、上北山村の物産販売イベントを行います。

その他、東新町の児童公園では縁日を、ベルテラス生駒やびっくり通りでは商工会議所の皆さんによるイベントもあり、たけまるホールから生駒市役所駐車場まで駅前一带を使った形で行います。

また、市制50周年のときに大変好評でしたので、市内3ヶ所で花火を打ち上げます。

なお、会場が広範囲となり、中身も多岐にわたることから、今回初めてボランティアを市民の皆様から募集します。

【生駒市総合防災マップ2023保存版】

市長 今まで何回も防災マップは出していますが、今回の総合防災マップは新たな4つのポイントがあります。

一つ目は今まで災害種別（土砂災害、洪水、ため池決壊）ごとに作成していたハザードマップを1冊にまとめたということです。二つ目が、総合的な防災マップとしては10年ぶりの発行になります。また、市内81か所の防災重点ため池が決壊したときにどこまで浸水があるのかというシミュレーションの内容も組み込みました。最後は生駒市からの情報の他に民間事業者などの防災に関する情報を集めた情報なども掲載しています。これまで伝えてきた情報を丁寧に1冊にまとめた総合防災マップということでご理解いただければと思います。

【質疑応答】

（いこまる相談窓口）

記者 重層的支援会議ではどのような内容を議論されますか。

担当課長 4月はヤングケアラーの件、5月では「まごころ収集」（ごみ）をテーマにしました。今後

も毎月課題を共有しながら知識を深めていくということになります。

記者 今回「いこまる相談窓口」を始めたきっかけは何ですか。相談者がいわゆるたらい回しされているという苦情を解消するということですか。

市長 今まで相談対応については、比較的丁寧に対応をしていると思っていますが、更に体制もしっかり作り、徹底するということです。

記者 地域包括支援センターにもいろんな専門家がいて、多岐にわたる問題に対して比較的連携が取れていると思いますが、今回はこれらのセンターと市庁舎を結びつけるのが狙いですか。

市長 今でも地域包括支援センターとの連携は相当進んでいると思っています。今後はこれらのセンターで対応しきれない案件について、「いこまる主任推進員」のコーディネーターや重層的支援会議などの体制を組んで対応していくということです。

記者 「いこまる相談窓口」の設置と聞けば、ここへ行くと全ての問題を解決してくれるようなイメージを持ち、市民は混乱するのではないかと思うのですが。

市長 一つの窓口に多くの専門家を置いて全ての問題に対応するのも一つの方法ですが、そのような窓口を何か所も市内各地に整備するのは難しいので、とにかく複雑な課題があったら関係しそうな所に来てもらえば、それを関係機関で共有してしっかりと次に繋げて連携体制をつくるのがより効果的と考えました。ロゴマークを統一し、窓口の数も増やした形でやっていきます。市民の混乱を招かないよう、そのような趣旨や考え方をきちんと発信していきたいと思っています。

記者 複雑化複合化した支援ニーズっていうのは、例えばどういった事例がありますか。

担当課長 8050 問題やヤングケアラーなどがあげられます。

市長 例えば子どもの虐待事案では、子供の発達障害や親の生活困窮、学校等でのいじめなどが関連していることもあります。困っている人の相談することに対する敷居を下げることも大切だと考えています。ヤングケアラーなど自ら市などの窓口で相談して来るのが難しいケースもありますので、それらをどうフォローしていくかも課題です。

(その他の質問)

(学研高山地区第2工区)

記者 5月20日に「学研高山地区南エリアまちづくり協議会」が開催されましたが、市長の所感と今後の進め方についてお聞きしたいのですが。

市長 具体的に現場での事業が進んでいくという意味で、本当に非常に大きな一歩だと思っています。協議会には8割以上の地権者の方に入って頂き、いい形でスタートが切れました。今後具体的な議論になればいろんな調整が必要になってくるとは思いますが、この1つ目のブロックをきちんと進めていくことで、今後地区全体の開発が速やかに円滑に進んでいくことを期待していますし、市も全力で対応していきたいと考えています。

記者 新知事になったが影響はありますか。

市長 今までどおり進めていますし、特に体制が変わったということはありません。

(了)